

## 〈令和 2 年度 2 学年 先端技術講演会〉

令和 3 年 1 月 13 日（水）6, 7 校時に 74 回生(2 年生)を対象として先端技術講演会が開かれました。今回の公演は「理系と文系の間」というテーマで、東北大学名誉教授、そして仙台一高の OB であるの野家啓一先生よりお話をいただきました。

### 〈講演会の様子〉

講師の野家啓一先生に

1. 先生の略歴
2. 先生は今までさまざまな学問とどのように出会い学んだのか
3. 物理学の世界から哲学の世界に移ったきっかけ
4. 学問と歴史は今までどのような歴史を持ってきたのか
5. 理系と文系の区切りは必要なのか/学問とは
6. 私たちの学業への向き合い方/社会に出た後の進路の考え方

の大きく分けて 6 つの内容についてお話をいただきました。この講演を通して、私たちが普段見逃してしまっている「学問の本質」とはなにか、そしてどのような因果関係で学問は歴史を動かしてきたのかを、理系にも文系にも属さない中立的な立場から知ることができた。

その後の質疑応答では、今回の講演に関する質問だけでなく、元日本学術会議の会員であった先生から見た日本政府の新型コロナウイルスに対する対応についてどう考えているのかといったタイムリーな質問も見受けられた。どの質問にも先生の豊富な知識とわかりやすい解説で丁寧に答えていただいた。質問者も、先生の考えをより深く知ることができるような良い質問をしている人が多く見受けられた。



## 〈以下生徒の感想(一部)〉

- 学問との出会いというのは授業に限らず  
「友達に借りた本が～」 「ふと盗み見して～」  
など、意外と身近なところにあるものと思った。  
また、別な分野の学問を学んだ偉人どうしを  
比較することが非常に興味深く感じた。どちら  
もすごい人であり、学問に優劣はつけられない  
ということが分かった。



- 今までには文系か理系かのいずれかを研究した方々のお話を聞く機会が多かったが、今回のご講話を通じて文理をまたぐ領域に関する新たな知見を得ることができ、視野がかなり広がった。
- 先生は書物や社会の出来事に非常に敏感だったとかがえたが、その中には物理や生物などの多方面でのパイオニアが書いた本や、様々な民主運動を取り扱った本など、かなり刺激的なものを読まれていたように感じる。私自身もそういった知的好奇心を持ち、その過程で興味を広げ本当にやりたいことをもつけていくべきなのだと痛感した。

## 〈編集後記〉

今回の講演会で、従来の考えとは異なる環境問題や社会問題などの大きな壁との向き合い方を改めて確認できたと思う。また、受験生となる74回生全員が大学進学の前にある自分の将来像をはっきりさせられたと思うので、これをモチベーションに皆で大学受験を走り切りたい。

